



発行所 アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856

アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp

編集 アシュラム誌編集委員会

振替 01050-6-53772
アシュラムセンター

印刷 明文舎印刷商事(株)

解題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

私達の国のこれからを決める衆議院議員選挙が終わった。その結果については、投票率の低さと相まって、憂慮されている方も多いことと思う。しかし、いづれにせよ、今回選ばれた国民の代表は、最長で4年間は続くわけで、これからこの国がどこへ向かっていくのか、注視すると同時に、もつともつと真剣に祈っていかねばならない。ところで、今回の選挙運動の中で、ある党のTVコマercialが話題になったのをご存知だろうか。党代表の顔が大写しになる後ろで、なんと讃美歌「この世はみな」(讃美歌21-361番・「こも神の」讃美歌90番)が流れていたのだ。なぜこの曲が選ばれたのか、その理由は知らない。ただ、この歌と彼らの声高の主張とが、かけ離れているのではとの違和感をもったのは私だけではないだろう。「この世はみな神の世界、天地すべてが歌い交わす」とはじまるこの歌は、3番「悪魔の力が世に満ちても、わが心に迷いなし。主こそがこの世を治められる」と閉じられる。これを作詞した

瞑想

のは、モルトビー・D・バブコックというアメリカ長老派教会の牧師である。彼はニューヨーク州ロックポートの教会の牧師をしている頃、毎朝の散歩の際に見る、自然の美しさとそれを創造された主に感動し、「I am going out to see My Father's World (お父さんの世界を見に出かけよう)」と口癖のように言っていたという。「岩に樹々に、

娘シオンよ、声をあげて喜べ。私は来て、あなたのただ中に住まう、と主は言われる。

主幹牧師 榎本 恵

空に海に、妙なるみわざぞあらわれたる(1番)、「鳥の音、花の香 主をば たえる。朝日、夕日、栄えにはえて、そよ吹く風さえ神を語る」(2番)。これらの言葉からは、まさに美しい自然を、そして創造主なる「お父さん」を喜び歌う詩人の感動が伝わってくる。しかし、この3番の歌詞を見るとときに、それがただ単純な自然讃美歌の歌ではない

と苦しみとで、世界は満ち溢れているように感じる。しかし、その時、天のみ国の鐘が鳴り響くのだ。そして「娘シオンよ、声をあげて喜べ。私は来て、あなたのただ中に住まう」(ゼカリヤ2:14)と預言者ゼカリヤの声が響くのだ。20世紀の初頭、近代文明の名の下に、スクラップ&ビルドを繰り返すニューヨークの街を見つめ、バブコック牧師は、しかしそれでも神こそが支配者であると高らかに叫ぶ。また60年におよぶバビロン捕囚の中で、悲観と諦念に沈むイスラエルの人々に、ゼカリヤは、神こそがそこに住まうと、力強く励ます。

友よ、私たちは、この閉塞したコロナの時代の中にあって、また国会議員の3分の2が、改憲を求める勢力によって占められるこの国の状況の中で、何を見、何を聞くのか。失望と落胆、不安と恐れの日々だけが過ぎていく。しかし友よ、救い主は、今日生まれるのだ。そしてそれでも、この世はみな、父なる神の住まわれる世界なのだ。

クリスマスおめでとう。

第45回山陰アシラムの恵み

遠藤 誠一

10月4日(月)から2日間、岡山県蒜山高原にある蒜山バイブルキャンプを会場に、12名の方々と共に、み言葉と祈りにたっぷりかかる、幸せなひとときを過ごしました。今年「主の大庭で過ごす一日は、千日にもまさる」をテーマに、講師は参加者の3人の牧師が担当しました。場所は西の清里高原と言われているすばらしいところですが、この大自然の中で過ごす時間は贅沢で、あつという間に過ぎてしまいました。

高年齢の方々に配慮したプログラムは自由時間をたっぷりとした、

ゆとりのあるもので、近くの公園を散歩したり、温泉にゆつくり入る人もあり、身も心も癒される時でもありませんでした。

この山陰アシラム開催にあたっては、実行委員会の7名が毎月集まり、祈りと準備を



もって備えたので、聖霊の息吹を感じました。ファミリーは4人の少数のために、一人ひとりがじっくり話し、メンバーがじっくり聴くことができました。今回のアシラムでは、ピリピ人への手紙をじっくり静聴することを通して、私ほど

い存在であるか、神の子という身分を与えられた権威がどれほど凄まじい存在であるかという事を知ること、あらためて知らされました。神の御子イエス様のご自分を低くして、しかも十字架の死に至るまで従順に、神のご意思通りに死んで、私の罪を贖ってくださいました。その結果、神の子という身分と権力、権勢を与え、天国を約束してくださいましたか。

それほどまでに、私は絶大な愛を受けている存在であるか。この恵みを思うときに、感謝と喜びでいっぱいになりました。

第25回埼玉一日アシラムの恵み

五十嵐 桂子

この日を迎えるのにこの一年、毎月第二火曜日ミニアシラムで祈り続けてきました。

祈りが聞かれ、主が先立ち祝福と恵みを与えようと39名の一人一人を招いてくださいました。参加者は6つのファミリーに分けられ昼食から一緒し、これからの一年互いに祈り合う家族となるのです。

今回の聖書の箇所は「フィリピの信徒への手紙1章3節〜6節、21節〜23節」主題は「わたしにとって、生きる

来年も10月3日(月)から同じ場所です。2日間行われます。今から楽しみに、備えたいと思います。(山陰アシラム代表)

とはキリストを生きること」です。

開会礼拝と充滿の時に岩波先生の説教がありました。始めに先生より「今日、一人一人の霊性が新しく造りかえられるように」と祈ってくださいました。

「フィリピの信徒への手紙」はパウロが獄中で書いた喜びの多い手紙でもあります。パウロはイエスによって回心してから、イエスを知った素晴らしさに人生観(宗教・人生の価値・人生の目標)が変えられ、イエスの生

き方により従順を学ぶことを人生の目標にしたのです。

先生は「この信仰が集まった一人一人にも与えられているのです」と熱く語られるのです。

そしてご高齢でありながらも神の愛を語る「霊の言葉」は少しも変わることもがなく、さらに豊かに語られ、聞くものを霊で満たしてくださいます。

アシラムの創立者、榎本先生の「朝の15分はあなたの愛の語りかけを聴き、素直にお従います」と信仰の喜びがわきます。と、霊的養いのお薦めがあります。パウロの信仰に倣い、人生の従順を目標に歩みたい

ものです。

最後にミニアシラム、今回の一日アシラムに会場を提供し、さった上尾教会の皆様

に感謝です。
(日本バプテスト連盟)

川越キリスト教会員)



治朗兄から託された祈りを携え、ご両親ご来訪。一泊され、聖書教室、早天祈祷会に。兄召天後25日目、祈りは聴かれた。
初！早天祈祷会での祈り
10月23日

池谷 照雄

今朝は命の水の勉強をさせていただきまし

また池谷治朗の方もガンの痛みから解放され、今はやり残したことを、やりたいことをし、また各地のところに行っているのではないかと思います。

皆様方からいただきました言葉を感謝します。



10月、静岡から車にて、ご来訪。アシラムセンター入り口にて。左から恵師、池谷寿子母、照雄父、和田モッド姉。

もう一言の証

6月27日

池谷 治朗

私の今の出来なくなることがいい！いいっていうか、出来ることは当たり前なんだけど、出来ないことが大事になってくる。人の手を借りなければなら

ごさせていたでいるなど、感謝できるんです。

家の中が変わったんです。穏やかになって、父もおばあさんのことを思ってくれるし、母も父のことを思うし、父も母のことを思ってくれる、みんなが思いやりがあつてね、時にはそれが元に戻ることもあるし、そういう感じですよ(笑)

(アシラム伝道師 9月27日召天)



杖をつき、恵師、鈴木兄らを出迎えてくださった(6月27日)

「折れない時に、祈って下さっている人がいる、それが心強いです。1人じゃない！」激しい痛みのため、早天祈祷会にZoom参加できなかった日に。」

「ちいろばチャンネル」ご覧の方から感謝のお便り



主の恵みと平安がありますように

榎本先生、初めてお便りさせていただきます。失礼をお許しください。

私は、昨年5月YouTubeに「ちいろばチャンネル」があることに気づきまして、その時から動画を通して榎本先生の説教など視聴させていただいている者です。チャンネル登録をしたら、「ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝」をLiveで配信されますので礼拝を共にすることができて感謝しております。また、アシュラムセンターのホームページも見ることができますので、御言葉に聴くことができます。

感謝の気持ちをお伝えしたいと思いつつ時が過ぎるばかりでしたが、神様から背中を押していただきやっとペンを取ることができました。

私は今年70歳を迎えました。27歳の時に洗礼を受けましたが40歳の頃に自分から教会を離れてしまった者です。それから30年近く過ぎてしまいましたが、一昨年長兄が病に倒れた時がきっかけとなり、再び聖書を読むことに導いていただきました。この時から書棚にしまったままになっていた榎本保郎先生の「旧約聖書一日一章」「新約聖書一日一章」を取り出して聖書と共に一日に一章ずつみ言葉に聴くことと祈ることを続け今日に至っております。「一日一章」を求めました当時は、それほど読み進まぬうちに読むことを諦めてしまっておりました。

今コロナ禍という時にあって、動画等を通してさまよってきた私にみ言葉へと導かれるとは思ってもありませんでした。このような者でも神様のまなざしを感じられるようになったことを感謝しております。

イエス様のとりなしの祈り、兄弟姉妹の祈りに支えられていることを思うこの頃です。これからも主に立ち返りながら一日一日を大切に歩んでまいりたいと願っております。

うまく言葉にいい表すことができませんが、榎本先生、そしてアシュラムセンターの皆様の祈りとお働きに感謝いたします。神様の祝福が豊かにありますようにお祈りいたします。



10/25 みもとに…

渡辺 美寿子姉(元常任運営委員)

美寿子様御召天の報に接し寂しさがこみ上げました。長年アシュラムセンターの働きを支え、励ましを下さった事を忘れることはありません。主から「良くやった、善且つ志なる僕よ。」とお褒めのお言葉を戴いて、永遠の聖国で安らかにお願い下さい。

ご家族様の上に主からの平安とお慰めが豊かにありますようお祈りします。

アシュラムセンター 榎本和子



保郎師時代からの大阪聖書教室、美寿子姉が準備などご奉仕してくださった(写真前列右) 2010.9.8

→常任運営委員会後、ホウキとハタキでチャペルの掃除、念入りに。「アシュラムセンターが、大好きなんや！」と和子母、96歳!



←10月 修道場アシュラム感謝。右から、青木兄(常任)西野姉(阪神アシュラム友)、吉田姉(札幌アシュラム友)小宮山師(2回目のご参加)

→京都葵教会の皆様、ラビリンスを歩き終え、心スッキリ!まるで秋晴れのように!?



あとがき

今年も、もう終わろうとしている。コロナに翻弄された一年であったが、今年のクリスマスは、どの教会も、喜びに溢れたものとなるように祈っている。しかし、私たちアシュラムセンターにとっては、やはりこの一年の間に、大切な友を天に見送ったことに心が重く暗くなってしまう。十一月になり、九州福岡の矢野敏博牧師、そして渡辺美寿子姉の訃報が届いた。お二人とも長年アシュラムを大切にしてくださり、ご尽力賜った大変な恩人である。どうか、その魂の安らかならんことと、残されたご家族ご友人の上に主の慰めと励ましのあることを祈っている。

主のご降誕を待ち望みつつ、「わたしはこの目であなたの救いを見たからです」(ルカ2:30)とのシメオンの言葉を思い起こしている。クリスマスは、この救いの日を、その召される日まで待ち望み、そして確かにそれを見た人たちのためにこそあるのだ。

どうか、残された私たちは、その先達たちの歩みに倣うものとなるよう。

(恵)

瞬きの詩人

水野源三の世界 44

三浦綾子記念文学館特別研究員
森下 辰衛

御言葉 1979

神様

今日も御言葉を下さい
一つだけで結構です
私の心は
小さいですから
沢山いただいても
溢れてしまい
もったいないので

「溢れてしまう」という表現から見ると、源三さんがいただく御言葉は堅い表紙の重い本ではなくて、液体のイメージなのかも知れません。朝毎に汲んで来る清い泉の水のような。

もったいない。こぼれそうで、もったいない。「もったいない」という言葉の意味は、勿体=物事のあるべき姿(本質)が、無い(正しく扱われていない)状態ということです。尊いものが無駄になってしまい、申し訳なくてたまらない。そのために心が痛むという意味でしょう。

源三さんは「今日も」御言葉を下さいと言っています。毎日、一昨日も昨日も今日も明日も、どんな日も変わることなく、それはいただいて来たもの、神さまが下さるものなのです。

源三さんは「下さい」と言っています。自分で獲得するものでなくて、くださるもの、上から下に下って来るものだからです。それを、源三さんは心の中の両方の掌を合わせて差し出すようにして、受け取ろうとするのでしょう。一しずくもこぼさないように、大事に大事にして。昨日も今日も明日も。毎日、でも一日に一つだけ。

それは「一つだけ」なのです。良いものなら、人は沢山欲しいと思うし、集めたいと思うものです。でも、沢山人は心に入れることは出来

ないし、出来たとしても本当に大事にすることは出来ません。本当に大事な方からいただく大事なものは、心の中にそれだけを入れておきたい。だから、たった一つでいい。たった一つがいいのです。沢山のものをかき集めて、一番大事なものは失ってゆく貪欲で騒がしい恋人たちのようにではなく、たった一つを心に抱いて生きてゆきたいのです。

金子みすゞに「こころ」という詩があります。子どもの目から歌った詩です。

おかあさまは おとなで大きいけれど、
おかあさまの おこころはちいさい。
だって、おかあさまはいいました、
ちいさいわたしでいっぱいだって。

わたしは子どもで ちいさいけれど、
ちいさいわたしの こころは大きい。
だって、大きいおかあさまで、
まだいっぱいにならないで、
いろんなことをおもうから。

神と人への愛が成長するということは、心が小さくなってゆくということです。そして、自分の心の小ささを知ることが大事なことなのです。心が小さいことを知ることは、御言葉がとても大きいこと、この心にお入れするには大きすぎることに気づくことでもあります。

そこにある途方もなく隔たった差が見えてくるとき、御言葉をお迎えすることが余りにも「もったいない」ことであることは、おのずと明瞭に痛感されてきます。

朝毎に、この詩のような心で祈って、源三さんは、聖書を読んだのでしょうか。そして、彼のこころに生まれてきた詩のことばも、天から降って来てくさだるもので、神さまからの授かりものだったのだと思います。

こんな純度で、一つだけを大事にする心で、一日を生きてゆけたら。こんなに、ひとすじの心で誰かがあるいはその言葉を大切に生きてゆけたら、人はどんなに幸せでしょう。そう思わせてくれる源三さんです。

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。
直前の変更の場合あり!

12月の聖書教室など	
3(金)	阪神ミニアシュラム (Zoom PM1:00)
4(土)	広野祈りの家 (兵庫県三木市志染 猪瀬姉宅 PM1:00)
11(土)	聖書と学ぶ会 (Zoom PM8:00)
13(月)	福岡聖書教室 (博多クリオコートホテル PM1:30)
14(火)	Zoom聖書教室 (Zoom AM10:30、PM7:30)
19(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝 (PM5:00)
20(月)	箴言に学ぶ会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
22(水)	美しい足の会 (Zoom AM10:30、PM7:30)
27(月)	静岡聖書教室 (旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30)
28(火)	東京聖書教室 (御茶ノ水クリスチャンセンター 4F AM10:30)

【主な問い合わせ先】
0748-33-4030
アシュラムセンター

12月のアシュラムなど	
6(月) 10(金)	教役者のためのリトリートアシュラム 0748-33-4030 申し込み終了 感謝! アシュラムセンター
8(水)	第11回 合同平和祈禱会 (アシュラムセンター PM5:00) 0748-33-4030 奉仕者 上内 鏡子師 アシュラムセンター (日本基督教団 神戸イエス団教会牧師) 平和のために祈り合いましょ!
9(木)	◎ クリスマス祝会(アンナ祈りの家) ◎ 心づくしの料理と音楽で主を喜び待つ時を共に! ☆昼 12:00~ 【愛さん会】 大山謙一兄・悠子母(みんなのカフェちいろば) ☆食後~ 【コンサート】 トピオラ 山本由美子姉(母) トチェロ 山本善哉兄(京都シャロームチャーチ) トピアノ

第47回 年頭アシュラム
(彦根市 琵琶湖コンファレンスセンター)
 奉仕者 榎本恵牧師 (アシュラムセンター主幹牧師)
 貴村かたる牧師 (日本基督教団 天門教会牧師
 ・日本クリスチャンアシュラム 連盟事務局)

1/27(木)
29(土)

詳しくは、案内チラシをご覧ください

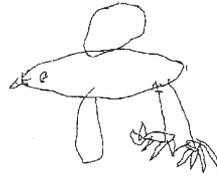
待望祈禱、そして、ご参加
お待ちしております!




5月~8月、共に過ごした石田兄から、地元で、就職が決まったとの便りあり。早天祈禱会の友、池谷兄が祈って下さってました。きつと今も。私達もお祈りしていますね。便りの最後に「季節の変わり目ですので、どうかご自愛専一になさって下さい。」と。優しい言葉に感謝! 写真は早天後の朝食時!

みことば

ノースカロライナ大学院生
Zoom聖書と学ぶ会
榎本 空



鳥はいつか どこから とんでくる
空の旅。そして どこから 消えてく
ゆうやけ こやけ。(空6才の詩?)

知恵ある者はどこにいる。学者はどこにいる。この世の論客はどこにいる。神はこの世の知恵を愚かなものになさったのではありませんか。 Iコリント1:20

すっかり秋になった。私が住んでいるノースカロライナも、木々が黄色に赤に鮮やかに色を変え、落ち葉を散らせている。そういえば3歳の娘と落ち葉の上をザクザクと言わせながら散歩していたとき、彼女がこんなことを呟いた。秋が終わったら冬が来るね。冬になったら雪が降るよね。雪の下で落ち葉さんたちは何をしているんだろう。きっとお茶でも飲んでるんだろうね。そんな言葉を聴きながら、真っ白な雪の下で寒い寒いと手を擦りつつ、お茶を啜る落ち葉たちの姿を想像して、思わず笑ってしまった。同時に、落ち葉たちに命の鼓動を聞き取り、この心寂しい季節の背後に、落ち葉たちの賑やかなお茶会を見つめる娘の想像力に、感服するような気持ちになった。普段、難しい顔をして本と睨めっこするばかりの私ではとても太刀打ちできない知恵が、彼女にはある。それこそがきっと神の知恵なのだろう。最後に牟礼慶子の詩は、どうだろうか。

ともあれ くらい土の中では
やがて来る華麗な祝祭のために
数かぎりないものたちが生きているのです
その上人間の知恵は
触れればくずれるチューリップの青い芽を
まだ見えないうちにさえ
春だとも未来だともよぶことができるのです
(次号につづく)